

(別記様式)

令和6年度 府立桂高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ 実施段階 ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
教育目標 ・創造性に富み、心豊かな、たくましい人間の育成を図る。 ・地域に根ざし、地域に愛される「地元の高校」を目指し、学力の向上と調和のとれた人格の形成を図る。 1 学力の向上と希望進路の実現 2 学習と部活動の高いレベルでの両立 3 「探究活動と研究の桂」の推進 4 生徒の自主活動の推進 5 地域連携や地域貢献のさらなる充実	成果 1 近隣の小中学校をはじめ、大学や民間機関等との連携において効果的な学習成果と地域貢献を果たすことができた。 2 専門学科では、T A F Sの研究活動を軸に各種コンテストにおいて高い評価を受けた。普通科ではKR（桂リサーチ）コースにおけるKRPを軸とし、探究活動プログラムを確立・推進することができた。 3 本校の特色や教育活動について、近隣地域や中学生等に一定の理解が進み、地域に根ざした学校の一つとして認識された。 課題 1 「自主自律」の校風のもと、自ら学び、自ら考え、主体的に活動できる生徒の育成 2 専門学科の将来を見据えた教育改革と普通科のコース改編による教育効果の向上 3 新学習指導要領を踏まえた授業力向上と観点別評価の見直し 4 I C Tの効果的な利活用とデジタル・シティズンシップ教育の推進	1 特色ある学校づくりの推進 (1)学校の特色や魅力を、中学生とその保護者、地域住民への発信と、小中学校を含めた地域連携・地域貢献の充実 (2)普通科におけるコース改編による着実な成果と、専門学科における高大連携、産学連携を生かした研究活動の推進と教育内容の充実 2 学習、進路指導 (1)社会と自己を結びつけた主体的進路選択とその実現を図る妥協させない進路指導の充実 (2)新学習指導要領の着実な実施とともに、新しい時代に応じた全教科及び総合的な探究の時間における探究的な学びの実践 (3)I C Tを効果的に活用した授業実践と一人一台端末を活用した学習指導の充実 (4)文武両道の実現を念頭に置いた指導方法の研究及び環境の整備 3 生徒指導 (1)自主自律の精神のもと、基本的な生活習慣や規律ある学校生活の確立 (2)生活態度や挨拶等の指導による、生徒の社会性を高める指導の推進 (3)自己肯定感を高め、自主的・主体的活動や社会的視野を広める取組の推進と、生徒の「桂プライド」の醸成 4 人権教育及び教育相談及び特別支援教育 (1)生徒の人権意識の向上を図る指導の実施及び人権問題の解決に向けた資質・能力の育成 (2)いじめを未然に防止し、組織的に対応できる体制の確立 (3)配慮の必要な生徒への理解の促進と、合理的配慮に基づく対応の充実 5 危機管理意識の向上 (1)安心・安全を最優先とした教育活動の実践 (2)交通安全指導の充実

評価領域	重点目標	具体的方策	評価				成果と課題
組織・運営	◇各種会議の組織体制を整備し、各分掌の機能を活性化する。	◆各分掌部長は学校運営にあたって、校長の経営方針をよく理解し、本校の教育活動全般の活性化に向けて分掌を組織的に導き、一人ひとりの教職員が学校運営を担う意識をもち、教育活動にあたる。	1	B	B	B	・分掌部長を中心に、校長の経営方針に従った学校運営を行うことができた。 ・専門学科のさまざまな取組をととして、地域との交流をはかることができた。ホームページやSNSをととして、本校の魅力を発信することができた。在校生保護者に対しては、各分掌からのおたよりを、WEB配信を用いて積極的に発信した。 ・公開・研究授業週間を活用し、教員相互の学びの場を設定した。総合的な探究の時間の発表会を、専門学科、普通科の垣根を越えて行うことができた。 ・1人1台端末の利活用をさらに進めることができた。授業アンケートでは、83%の生徒が、授業で効果的にICTが活用されていると回答した。 ・普通科でKD、KRコースを設置して3年が経過した。コース配置のあり方、教育内容の検証・研究を本格的に進めていく必要がある。
	◇地域の信頼を高める学校づくりを行う。	◆専門学科、部活動、学習活動等の教育活動を、地域及び在校生保護者へ積極的な情報発信を行い、本校への理解をさらに深める。	2	B	B		
	◇専門学科、普通科の特色化を進める。	◆専門学科、普通科新コースの教育内容の検証・研究を組織的に進めていく。	3	B	B		
	◇新学習指導要領の着実な実施を組織的に遂行する。	◆教科主任会議をはじめ、各種会議等を組織的に連動させることにより、新学習指導要領に基づく指導を着実に実践する。	4	B	B		
		◆TAFSと総合的な探究の時間の実績をもとに、教科における探究活動等を推進する。	5	B			
	◇ICTの効果的な活用を推進するとともに、働き方改革を推進する。	◆「情報教育推進会議」を軸として、教職員のICTスキルの向上とデジタル・シティズンシップ教育の推進を図る。また、ICTを活用し、業務効率化を推進する。	6	B	B		
学習指導	◇「よりよい授業」構築のため、教科指導力を向上させ、生徒の学力充実に繋げる。	◆公開・研究授業週間を年2回実施し、授業アンケートの結果等も踏まえて、教員全員が授業力の向上のため研鑽する。	7	B	B	B	・公開・研究授業週間を充実させるために昨年度から協議を重ね、改善した。授業アンケートを実施し、授業改善に向けての材料とすることができた。 ・授業規律の確立については、年度当初に全教職員で内容を確認して指導をすることができた。タブレット端末の制限緩和に伴って、授業規律の乱れが危惧されたが、大きな影響はなく、規律ある授業を行うことができた。 ・観点別評価については、教科ごとに評価法が確立されつつあり、丁寧な評価ができています。 ・コース・科目選択については、学年部と連携をとり合い、生徒の希望を尊重し
		◆授業規律の確立について、全教職員が共通の意識を持ち、一致した指導を行うことによって、生徒が集団として学習意欲を持って授業に取り組める基礎を作る。	8	B			
		◆新学習指導要領における観点別評価について、昨年度の結果を振り返り、改善を進める。	9	B			
	◇希望進路の実現につながるよう学力を向上させる。	◆各分掌や各教科において生徒の学力の向上と希望進路の実現に向けて創意工夫を重ねるとともに情報を共有し、組織的に取り組む。教科主任会議のさらなる活性を図る。	10	B	B		
		◆生徒がコース選択・科目選択を適切に行えるよう、担任及び関係分掌と連携を取り合い生徒と保護者に対してわかりやすくて確かな説明をする。	11	B			

	◇教科に対する興味と学習意欲を高め、学力を向上させる。	◆教科に対する興味と学習意欲が高められるような授業展開（ICTを活用した授業、主体的・対話的で深い学びとなる授業）を学校全体で研究・実践・情報共有し、各教員が新学習指導要領にそった授業展開となるように工夫をすることで、生徒の学力と満足感の一層の向上を図る。 ◆学習強化週間（年間計10週間）を定期考査毎に実施し、自学自習・自主自律を基本とした学習習慣を身につけさせる。 ◆各学年で、生徒の実態を踏まえ、進路希望に応じた行事を開催し、教科指導と連携しつつ学習意欲を高める。	12	B	B		た選択ができるよう努めた。現コース制で3年間学んだ生徒が卒業を迎えることを受け、現コース制のあり方について総括する必要がある。 ・すべての教科でICTを活用した授業展開の研究・実践をすることができた。
生徒指導	◇生徒指導の現状と課題について、教職員の共通理解を深め、基本的生活習慣と規範意識を確立させる。	◆日常の生活指導の状況や課題について学年部をはじめ、教職員全体で共通認識が持てるよう、連絡・発信、相談を徹底する。 ◆学年部をはじめ教職員全体で連携して、服装・頭髪指導、遅刻指導、交通安全指導にあたる。	15	B	B	B	・服装、頭髪、遅刻、交通安全指導については年間を通して全教職員体制で実施した。特に交通安全指導については、警察署をはじめ地域と連携して指導をおこなった。遅刻指導については同じ生徒の遅刻が重なり、背景についても怠慢だけではなく生徒個人に応じた柔軟な対応が求められる。 ・服装および頭髪をはじめ校内規定については、引き続き教職員間でも基準の共有および見直しをすすめる必要がある。
特別活動等	◇生徒会を中心にリーダーを育成し、生徒の自主性を育む。	◆生徒会が学校生活のさまざまな面でリーダー性を発揮できるよう、生徒指導部を中心に適切な指導を行う。 ◆学園祭会議を通して、文化祭や体育祭をはじめ、様々な学校行事において全校生徒が自主的・主体的に活動できるようにする。	17	B	B	B	・文化祭と体育祭をはじめ、クリスマスコンサートや新入生歓迎会などの学校行事を生徒会を中心に生徒が主体的に企画、運営することができ、全体として高い満足感を得た。 ・男子生徒の加入率に比べると女子生徒の加入率の低さが目立つものの、全体の部活動加入率は70%と、多くの生徒が部活動への加入をして活動に励んでいる。 ・野外活動や研修旅行では学年毎に生徒の実態に応じた行程および活動内容を計画することで充実した活動を実施することができた。
	◇部活動と学習を両立させ、部活動や野外活動等で学ぶ集団行動や規範意識を生涯にわたる基礎とする。	◆部活動加入率の向上と活動内容のさらなる充実による学校全体の活性化を図る。 ◆野外活動や研修旅行の教育的意義を十分に理解させ、集団行動のなかで社会性を養う。	19	C	B		
進路指導	◇生涯を見通した進路選択のための適切な指導	◆普通科新コースの3年間の進路指導計画を策定し、適	21	B	B	B	・学年部と連携し、3年間を見据えた進

	と援助を行う。	切な時期に的確な資料・情報を提供する。また、個に応じた指導を重視する。					路行事を実施した。進路だよりを含め、適切な時期に資料・情報を提供できた。
	◇希望進路実現のために必要な学力の充実と向上を図る指導と援助を行う。	◆就職希望者のために説明会やガイダンス等を実施し生徒の希望の進路を実現させる。	22	B	B		・就職講座を通して丁寧に指導できた。
		◆生徒の実態に即した進学補習計画（平日補習・長期休業中補習）を効率的に運用するとともに、模擬試験や実力テストを積極的に受験させ活用し、大学入試等に対応できるようにする。	23	B			興味・関心・適性を見極め指導を継続する必要がある。
							・3年生の模擬試験の受験者は増加した。補習は個別指導は充実したが、1，2年生の長期休業中の補習をより効果的にする必要がある。
人権教育	◇教育活動全体に人権教育を適切に位置づけ、一人一人を大切にした教育を推進する。	◆日常の教育活動全般をとおして人権問題を自らの生き方の問題として捉えさせる。また、人権学習の講演や映画鑑賞を通じて自己と他者（社会）との関わりを考えさせる。特に、いじめや差別を許さない生徒の育成に努める。	24	B	B	B	・全3回（3年のみ2回）のいじめアンケートの実施とともに、アンケートに頼らない学年、学級運営により日頃から生徒が困っている状況を関係職員に相談しやすい雰囲気構築できている。
							・人権学習講演会や人権映画鑑賞等を通して人権意識の向上が図れた。今後は、SNSなどインターネット利用におけるモラル向上だけでなく、LBGTQをはじめ多種多様な人権への知識や実践力の向上にむけた学びを充実させる必要がある。
健康・安全	◇健康・安全についての意識を高め、自律的な生活習慣を確立させる。	◆健康診断の結果を基本的な生活習慣の確立への指導につなげるとともに個々の健康相談の充実を図る。	25	B	B	B	・定期健康診断を学校医と連携しながら計画的に実施することができた。
		◆保健委員会活動を通して、生徒自らが健康、美化活動などに取り組むよう指導する。	26	B			・学校説明会に合わせて美化週間を設定した。生徒アンケートから重点項目を決めて清掃を実施した。また、文化祭ではポスターの展示、毎週冷水機の水質検査などの活動をした。
	◇教育相談を充実させる。	◆配慮や支援の必要な生徒の将来の自立を見据え、教育支援会議を通じた情報共有を促進し、関係機関との連携を図りながら、個に応じた取組を校内で組織的に行う。	27	B	B		・支援の必要な生徒に対する手立てを担当と連携しながら行えた。特別支援学校と連携を図ったり、SSWを活用（8回）したりと個々に対応できた。
	◇校内の環境美化を推進する。	◆日常の清掃活動の徹底とともに、重点的な大掃除や美化週間などの取組を通して生徒の校内美化への意識付けを図る。	28	B	B		・学年ごとにゴミ出しの曜日を決め、ゴミ出しの分散をすることができた。トイレ使用のマナーやゴミの分別への意識付

							けを引き続き行う必要がある。
読書指導	◇教育活動に役立つ資料を収集し、豊かな心を育む読書活動を推進する。	◆新入生オリエンテーションの実施や、ICTの活用によって、生徒の自主的な図書館利用の促進と読書習慣の形成を図る。	29	C	B	B	・広報をTeamsで配信するなどICT化につとめたが、貸出冊数は減少した。 ・図書館の授業利用は増加し、授業時は積極的に支援を行った。 ・文化祭・読書週間での企画に成果があった。委員による仕事量の差が課題である。
		◆図書館を利用した教科の学習や探究活動、その他特別活動を支援する。	30	A			
	◇生徒の自主活動として図書委員会活動を援助する。	◆図書委員会の活動を活性化し、読書を啓発するための取組や図書館を利用したイベントを企画・実施する。	31	B	B		
渉外・広報・事報・事務	◇広報活動を充実し、学校情報を迅速に提供する。	◆広く本校の教育活動の発信を行い、ホームページやSNSをより充実させる。	32	A	A	B	・公式ウェブサイトやSNSを適時更新することにより、本校の情報を提供することができた。 ・学校公開や各種説明会等を通して、本校の情報を中学生や保護者等に十分に広報することができた。 ・保護者アンケートを実施し、本校の課題や保護者からの要望について教職員で共有し、改善に努めた。 ・保護者や学校運営協議会からの意見に真摯に耳をかたむけ、安全を最優先事項として老朽化による施設修繕を行った。次年度以降も継続して整備していく必要がある
	◇積極的な生徒募集、本校への志願者の増加の取組を実施する。	◆学校公開や説明会、部活動見学、中学校説明会等を通して、中学生・保護者等に本校の紹介を行い、適切に情報を伝え、より一層興味・関心を高める。	33	A	A		
	◇外部評価を積極的に取り入れ、学校改善に生かす。	◆保護者・PTA・学校運営協議会との連携を深めるとともに、中学生が本校に期待し、求めるものを十分に把握し、外部評価に対し改善すべきものは迅速に対応する。	34	B	B		
	◇学校施設の改修及び多面的な学習環境の整備を行っていく。	◆本校教育活動の円滑な推進及び生徒の安心・安全を第一に学校施設の改善と効率的な活用を考え、整備していく。	35	B	B		
研究・開発	◇農業・環境のスペシャリスト育成を目指し研究開発に取り組む。	◆TAFS(Training in Agriculture for Future Specialists)プログラムを深化させ、地域や社会の健全で持続的な発展を担うスペシャリストを育成する教育課程の研究開発に取り組む。	36	B	B	B	・TAFSによる研究活動を通して地域とつながり、実践的な課題解決に取り組んでいるが、全ての生徒がその機会をもっているわけではないのが現状である。 ・教科指導の中で施設・設備を有効活用し、より充実した教育活動を行うことができ、各種大会などでも一定の成果をあげた。しかし技術の継承、指導の在り方については共通理解を図る必要がある。 ・先進的な授業の構築など少しずつ定着はしているものの、今後を見据えた学科の在り方においては再検討が必要。
	◇専門科目の授業、教科指導の充実・発展に取り組む。	◆新しい施設・設備を有効に活用し、TAFSや専門学科の教科指導、フィールド科学実習、農業クラブ活動の中で主体的・対話的で深い学びを通して専門性を高め、地域社会と協働的に取り組む態度を養い、社会で活躍できる生徒の育成に努める。	37	B	B		
		◆専門学科の将来構想の方向性と観点別評価やICTの活用などの先進的な実践を通して、新しい時代に合わせた専門学科の在り方を検討する。	38	B			
	◇学校全体で研究・探究活動を推進する。	◆専門学科のTAFSと普通科のKRP(Katsura Research Project)や総合的な探究の時間との連携を含	39	B	B		

		め、桂高校全体として研究・探究活動をさらに推進する。					・合同発表会でお互いの研究活動について興味をもたせることが可能となったが、今後は交流の場をさらに増やし、共同研究なども視野に進めていきたい。
学 校 関 係 者 会 員 評 価 委 員 会 による学 校 評 価	・専門学科や部活動の生徒が地域や地元の中学校の行事に参加するなど、学校経営方針にあるように「地域に根ざし、地域に愛される『地元の高校』」となっている。専門学科の生徒が、地元の小学校の生活科や総合的な学習の時間の活動に協力するなど、全国的にも例を見ない小高連携の取組を行っていることは高く評価できる。 ・学校行事や地域の取組に参加する在校生の様子や、気持ちよく挨拶をしてくれる姿は、大変好感が持てる。 ・文武両道を掲げているので、部活動の加入率は気になるところではあるが、部活動や勉強、趣味の活動など、生徒が放課後をどのように活用するのかがより重要だと考える。						
次 年 度 に 向 け た 改 善 の 方 向 性	・桂高校が現在行っている、地域や小中高が一体となった取組を継続することが、今後の生徒募集につながる。 ・キャリア教育の観点から、小学校や中学校との関係をうまく活用し、教員志望生徒の小学校や中学校でのインターンシップを行うなどの取組も考えられる。 ・服装・頭髪指導など教職員間で基準の共有や見直しを行う際には、不快感を持たれないことが線引きになるのではないか。 ・KD、KRコースのあり方については、教育内容と進路をどのようにつなげていくかが課題となる。						